

関西支部報告

平成24年度 共晶会関西支部活動報告

関西支部では、毎年3月第2土曜日に総会及び懇親会を開催しています。今年は、宮田先生、金武教授をお招きし、3月9日に大阪丸ビルの大阪第一ホテルで開催いたしました。

今年も昭和28年卒の大先輩から平成24年卒の若手まで、幅広い年代の皆様が集まり、大変楽しい会になりました。参加者は総勢25名と例年に比べてやや少なかったのですが、大阪大学の先生や関東より参加された方など、今回初めて参加していただいた方が4名居られました。総会では、宮田先生より、「名古屋大学における教育・研究、産学官連携の動向」についてご講演していただきました。大学も生き残りをかけた競争が激しくなっており、学内のみならず既存組織の垣根を越えた連携を図り、名古屋大学が世界トップレベルの大学として発展すべく、種々のプロジェクトが実行されているようです。金武教授には、「材料系関連研究室の変遷」について紹介していただきました。綺麗な校舎の写真に驚かれた方や、各研究室の歴代の先生の写真を見て懐かしいと感じた方も多かったと思います。最後に幹事より全学同窓会の活動内容を報告し、総会は終了しました。懇親会では、大先輩から順に近況報告をしていただきましたが、今年も時間内では終わらないほどの盛り上がりとなりました。最後は、恒例の「伊吹おろし」の大合唱で締めくくりました。

共晶会関西支部の支部長が、今年から木村から樽谷新支部長に変わることになりました。私も幹事を交代することになりました。短い期間でしたが、どうも有難うございました。毎年3月第2土曜日は関西共晶会の日です。名簿の更新ができず、関西在住の方でもご案内をお届けできない場合がございますので、お問い合わせ、お誘いあわせの上、是非、来年にはご参加下さいますよう、お待ち申し上げます。

(共晶会関西支部 前幹事 天野真次)



関東支部報告

平成24年度共晶会関東支部活動報告

平成24年度共晶会関東支部総会では17名の同窓生が出席し、関東支部長の開会挨拶後、興戸正純先生の講演に移りました。先生は1979年から大学で勤務を始められ、33年以上に及ぶ研究により多くの成果を上げて来られました。現在は、マテリアル理工学専攻材料工学分野表面工学研究グループの教授を務められるとともに、エコトピア科学研究所の副所長の要職にもつかれています。講演会は、材料工学分野でバルクや高温融体の研究が減っており、鑄造や溶接をメインで行う講座もなくなっているという冶金屋の端くれである小生にとっては少し寂しい話で始まりましたが、本論の骨生成において、Ti上にHAp（水酸アパタイト）以外にチタニア皮膜に骨生成する際にアナターゼが有効であること、アモルファス化や超親水性状態が好ましいこと等、また、ナノメタル作製において有機溶液中に還元剤を入れて直接ナノCuを得るキャラクタリゼーションという方法が有効であること、CuとCu(OH)₂が共存する場合に還元状態が変化し、酸化されやすい場合にはキャップが必要であること等、Mg合金の表面処理について多くの興味深い話が聞けて、あっという間に1時間ほどの時間が過ぎてしまいました。先生には、これからもご活躍願いたいと思います。

今年も講演会の後は懇親会に入り、先生を囲んで人生経験豊富な色々な方々とともに歓談の時間を過ごすことができました。昭和27年卒の細井先生は相変わらずお元気で毎年参加していただいています。次いで昭和30年卒の星野先輩も80才になってもなお社会福祉協議会で仕事をされているとのことにより若い世代が元気をもらっています。今年初めて参加された方としては井村徹先生の息子さんで井村亮さんがいます。井村さんは8月に名古屋で行われた共晶会創立70周年記念式典でも講演してもらっています。これらの方を含め、各々の参加者が自己紹介および仕事、趣味、社会活動の近況を報告し、終始和やかな雰囲気下で支部会が行われました。写真撮影を最後に行い、来年の再開を祈念して閉会となりました。

さて、昨年までは個人情報情報の制約により新しい名簿の入手が困難でありましたが、今年は、共晶会本部からのご助言により一部新しい名簿を利用する事が出来、新しいメンバーの方にも参加していただくことが出来ました。この場を借りて、参加された方に御礼申し上げます。共晶会本部の方も含めて皆様方には今後ともご協力をお願いすることになると思いますがよろしく申し上げます。

（共晶会関東支部長 柴山卓真）